



広報もとみや

号外

平成23年
10月12日
発行
本宮市
秘書広報課

No.11

東京電力福島原発放射能被害から市民を守る

総決起大会を開催します

■ 時 10月16日(日) 午後5時～

■ 場 所 サンライズもとみや 大ホール

3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故は、7カ月が過ぎても今なお私たちの生活に大きな影を落としていきます。

このような中で、現状の共通理解を深めるとともに、放射能被害から皆様の健康と安全・安心な生活を守り、今後の復興に向けて市民の思いを結集し、東京電力および国に対し要求し実現を求めするため、「東京電力福島原発放射能被害から市民を守る総決起大会」を開催します。

東京電力および国に対し本宮市民の声を届けるため、市民の皆様お誘い合わせのうえ、ご来場いただきますようお願いいたします。

※駐車場に限りがありますので、お車乗り合わせ等によりご来場ください。

[大会テーマ]

- (1) 国は、国の責任で仮置場を早急に設置するとともに、除染費用を全額負担すること
- (2) 東京電力と国は、市民の長期健康調査と将来に渡る健康に責任を持つこと
- (3) 東京電力と国は、農業、商業、工業、観光産業全てにわたる風評被害解消を図ること
- (4) 東京電力と国は、原発事故による市民の肉体的、精神的被害及び財産被害に対する損害を賠償すること

**【主催】東京電力福島原発放射能被害から市民を守る総決起大会実行委員会
本宮市・本宮市議会**

◆問い合わせ先 本宮市災害対策本部(事務局 生活安全課 ☎内線112)

※お願い

広報もとみや号外は、地震災害、放射能問題など市民の皆さんに広く周知するものについてお知らせしています。回覧する場合は、はなるべく早く次の方にまわしていただきますようお願いいたします。

電子式積算線量計の測定結果の一部がまとまりました



△野口邦和先生

市は、健康管理対策として50歳未満の皆さんに電子式積算線量計の貸与を行っています。

この度、先行して実施した測定結果の傾向がまとまり、本市の健康リスク管理アドバイザー野口邦和先生のアドバイスをいただいたので紹介します。



△貸与している電子式積算線量計

《年間線量の推計値》

市民の皆さんに1～2週間、積算線量計を身に付けていただき、その間の積算線量を時間で割り算して1時間当たりの線量(ミリシーベルト/時)を算出し、単純に24時間をかけ算して1日当たりの線量(ミリシーベルト/日)を算出し、さらに365日をかけ算して1年間の線量(ミリシーベルト/年)としたものです。結果は以下のとおりです。

- ▶自然放射線による寄与を含む放射線量(単位:ミリシーベルト/年)

最大値 3.80	最小値 0.74	平均値 1.84
(3ミリシーベルトを超えた人の割合 1.74%)		

本宮市健康リスク管理アドバイザー 日本大学 野口邦和先生の見解

【1時間当たりの線量×24時間×365日は予想される最大の数値】

個々人の線量は本人にすでに通知していますが、その後、現在の大地放射線量(空間線量率)に存在している放射性セシウム、とりわけセシウム134(半減期2.065年)の放射能の減衰を考慮すると、1時間当たりの線量(ミリシーベルト/時)を単純に24時間と365日をかけ算、1年間の線量(ミリシーベルト/年)とするのは予想される最大線量となります。

【福島原発事故に起因する年間線量の推計値】

上記の線量には、自然界にある放射線も含まれています。自然放射線による屋内外の平均線量1時間当たり0.08(マイクロシーベルト/時)とすれば、1年間の線量は0.70(ミリシーベルト/年)となります。この部分を上記からひき算し、さらに放射性セシウムの放射能の減衰による線量の1年目の減少率0.887をかけ算すると、福島原発事故に起因する実際の1年間の線量(ミリシーベルト/年)は以下のようになります。

$$\text{例) } (3.80 \text{ (推定年間線量)} - 0.70 \text{ (自然放射線量)}) \times 0.887 \text{ (放射性セシウムの減少率)} = 2.75 \text{ (ミリシーベルト/年)}$$

- ▶放射性セシウムの減衰を考慮した実際の放射線量(ミリシーベルト/年)

最大値 2.75	最小値 0.04	平均値 1.01
----------	----------	----------

【これからについて】

今回の測定で最小値を示した方は、ほぼ自然放射線に起因する線量であると考えられますが、最大で2.75(ミリシーベルト/年)、平均1.01(ミリシーベルト/年)の数値は福島原発事故に起因する線量を受けていると考えられます。

100ミリシーベルト以下の線量ではヒトの発がんに関する信頼できるデータはないとされていますが、被ばく線量は低ければ低いほど安全であり安心できることも確かです。このような被ばくを可能な限り少なくするためにも徹底した早急な除染(放射能除去)活動が必要となります。

◆問い合わせ先 保健課 健康増進係 (えぽか内 ☎ 63-2780)